

中尊寺通り魅力提案へ

住民組織 街づくりプロジェクト発足

県道平泉停車場中尊寺線の道路改良事業のソフト事業として地名の由来や人物、歴史などを紹介する看板、表示などの環境づくりを考える住民組織「平泉上坊(わんぼろ)街づくりプロジェクト」が25日、発足した。代表に関宮治良さん(古都ひらいずみガイドの会事務局長)を選任

し、平泉ゆかりの人物や遺跡、民話を含め学習を続け、解説板などの文言、デザインを提案することになっている。

発足の会議には、町民有志と東日本コンサルタント(一関市)の永山克男さんら約10人が出席。発起人の関宮さんは「道路改良事業の中で解説板が実現できるような提案

し、住民自身が学習し、地名や歴史を知ることが原点となる」とあいさつ。

会員たちからは「毛越寺通りを含めた町内全体に範囲を広げ、訪れた文人墨客の歴史を勉強する場にしたい」などの意見も出された。

想定される事案として地名、平泉ゆかりの人物、遺跡、民話、樹木を網羅。同町を訪れた芭蕉と曾良、西行、宮沢賢治、井上靖らが候補に挙げられ、地名には伽羅葉、鈴沢池、塚、館前、泉屋など改良事業周辺の由来を学習することとしている。



中尊寺通りの地名などを考え合う住民組織として発足した「平泉上坊 街づくりプロジェクト」

い住まい、3代藤原秀衡の館を言う。住民の意見を取り入れ

て進めている道路改良事業に地元の歴史を紹介する解説板の実現を働き掛け、中尊寺通りの魅力アップに役立てる。同改良事業を進める県南広域振興局一関土木センターは2012年度に着工する考えでいる。